

又長明筆記には五郎右衛門に作つてゐる。

エモリアキタカ 江守直孝 通稱覺左衛門。父三井加兵衛の八王子の役に戦死後、外祖父江守祐庵に養はれて終にその氏を冒した。慶長八年前田利長に仕へ、大坂再役に町口で槍功があり、祿二千石に至り、中將番頭・御使番・御馬廻頭に歴任し、承應二年致仕して是爵と號し、延寶三年四月廿日八十六歳を以て歿した。

エモリアキマサ 江守直昌 通稱角右衛門。祿六百石。享保九年定番御番頭となり、十二年十一月病に依つて之を免ぜられ、十三年五月六日自宅で組外百石多田善太夫と喧嘩して殺害し、自刃して翌日落命した。

エモリナガヨリ 江守長順 大聖寺藩士。

通稱左久馬、城陽と號し、采地九十石を領した。幼にして努力衆に超え、古人寸陰を惜しむの語に感じて、夜間眠ること僅かに二刻、生を終るまで變ずることなかつた。曾て江戸に在つて佐藤一齋・大田元貞に學び、逸材を以て稱せられた。文政四年藩主前田利之命じて世子利極の師たらしめ、天保九年利平復之を師とした。十一年學問所會頭の職に任ぜられ、十三年疾を以て職を辭し、弘化元年その危篤に及び、利平は特に近臣を遣して胴服と藥餌とを賜ひ、且つ懇命を傳へた。蓋し異例に屬する。此の年十二月歿。享年五十五。長順人となり方正謹直、家人といへども晝間その箕座安臥するを見ることなかつた。著書頗る多かつたが、晩年皆火に投じて、僅かに十温一助・温古古義等を傳へた。

エモリユウアン 江守祐庵 通稱平左衛門。前田利家に仕へ千四百石を領した。子孫相襲

いで藩に仕へた。

エモン 惠聞 羽咋郡米濱眞宗東派存立寺の僧。寮司に進み、明治二年十月十八日享年八十三を以て寂。法諡重誓院。

エモンパン 右衛門橋 金澤城外惣構の橋梁。元祿・享保の頃よもんど橋と書いてあるのは右衛門殿橋の訛である。

エウウイン 惠遊院 大聖寺藩主第六代前田利精の側室某氏の法號。

エリユウ 惠龍 能美郡北浅井眞宗東派妙永寺の僧。高倉學寮に入り、寮司に進み、又素風と號して和歌・俳句を好んだ。嘉永元年正月十八日五十五歳を以て寂。

エヲサイキ 江尾才記 前田利家に仕へて祿三百石に至り、後富山藩臣となつた。第三子左太夫義長配分知百石を受けて加賀藩に歸り仕へ、その子孫相繼いだ。

エヲサイキ 江尾才記 初め富山藩にあつて父才記の遺知二百石を受け、後歸つて加賀藩に仕へた。寛文七年もと通用する所の灰吹銀を停めて、豆板銀を之に代へた時、才記は小拂奉行であつたが、新銀は使ひ慣れぬとして、その取扱を拒み、九年十二月四日追放せられた。

エンガノマツ 艶賀の松 二册。寶永五年金澤三ヶ屋五郎兵衛板。友琴三周忌の追悼俳句集である。題號は故人が編者の夢に現れて、『艶賀の松我が扇をたゝみ禮』の句を吟じたといふから採る。上巻は追悼の發句連句を集め、下巻は句空門下の連句及び各地俳人の句を載せる。編者百花堂文志は即ち三ヶ屋五郎兵衛である。

エンキノミヤ 猿鬼の宮 ↓トウメ 當日。

エンキユウジ 圓休寺 金澤七ヶ屋町に在つて、眞宗東派に屬する。初め河北郡二日市に居たといふ。

エンキヨウジ 圓教寺 金澤三間道の北側に庚申堂があり、山伏圓教寺が之に奉仕して居た。もと卯辰山に在つた庚申堂を、元和二年こゝに移轉せしめたもので、明治元年神佛混淆禁止の後、圓教寺は復飾して堀多壽美と改め、庚申堂を廢した。↓コウシンヅカ 庚申塚。

エンキヨウジ 圓教寺 金澤森下町に在つた日蓮宗寺院で、元祿三年八月主僧が公事場に於いて吟味を受け、寺を破却せられた。その罪科の何であつたかは明らかでない。

エンキリミヤ 縁切宮 金澤右衛門橋の下、長町五番町の入口なる川縁、元惣構之土居下に在つた。俗傳に、昔村井氏の内室甚だ嫉妬深く、遂に病を發して死するに臨み、世に婦人の嫉妬ほどつらいことはないから、死後男女の交りを和らげ守らうと遺言した。因つてこの地に小祠を置いてその靈を祀つたのである。蓋し縁切宮とはいふが、縁を結ぶにも祈つて験があるとして、夜陰に參詣する者が多かつた。

エンゲツテイ 遠月亭 ↓カンゲツテイ 觀月亭。

エンク 圓工 江沼郡龍ヶ原の内の小字。

エンコウジ 圓光寺 金澤上小川町に在つて、妙法山と號し、日蓮宗に屬する。羽咋郡妙成寺六代日存の建立といふが、舊地は詳かでない。前田利長守山在城の時そこに寺地を賜はり、又富山・高岡に徙ひ移り、後に寛永十三年金澤に來り、今の地に寺を起した。

エンコウジ 圓光寺 能美郡大杉にあつて眞宗東派に屬する。存如上人の二子蓮照應玄は、圓光院學本坊といふたが、兄蓮如が本寺を相續した後加賀に下り、大杉谷に入つて一字を造立し圓光院と稱した。應玄は文龜三年三月廿六日七十一歳で示寂。第五代賢祐の時圓光院を改めて圓光寺と稱した。

エンコウジ 圓光寺 石川郡富樫庄に屬する部落。この部落は隣邑寺地村と甚だ近く、而して圓光寺村には寺跡がないから、その圓光寺といつたものは寺地村に在り、寺地天皇社と關係があつたのであらうといはれる。

エンコウジ 圓光寺 鹿島郡井田に在つて、眞言宗に屬する。もと熊野社の別當であつた。文政社號帳に『當社祭禮は、井田村眞言宗圓光寺と金丸村神主梶井周防と入合相勤。社頭神輿の前は對座に相勤、拜殿湯花釜前の神事は梶井一人に而勤行仕。』とある。

エンコクジ 鹽谷寺 鳳至郡宇出津に在つて眞言宗に屬する。山號は熊野山。元和元年範宥を中興開山とするといふ。正保二年閏五月八日前田光高の法會諷經布施米を賜はつた本多安房守等からの判書に、能州宇出津鹽谷寺とある。

エンジュイン 圓受院 加賀藩主第五代前田綱紀の側室鈴木氏の法號。

エンジュジ 圓壽寺 鹿島郡下に在つて、眞宗西派に屬する。

エンジヨ 遠所 金澤の城下から距つた地をいふ。故に宮腰町奉行・小松町奉行・境奉行・御郡奉行の類は、一般に遠所諸奉行といはれた。又米穀に在つては能登・越中の産を遠所米といふた。